

！今月の注目情報

ご長寿おめでとーごーざいます

敬老の日を記念し、栃木市内最高齢者および今年度100歳を迎えられる方を訪問し、祝詞と記念品、敬老祝金を贈り長寿を祝いました。※敬称略

問合せ 地域包括ケア推進課 ☎(21)2249



かくた 角田きみ



おかむらすみ こ 岡村住子



うすい 白井トシ



いいだ 飯田マス



あかばね 赤羽根ミサ



あおき 青木ナヲ



あいだ 相田フユ



すずきとしお 鈴木利雄



しの 篠タカ



しおつか 塩塚ユキノ



さやまよしえ 佐山芳枝



きむらよしえ 木村好枝



きし 岸リウ



かわづ 川津ノブ



はとり 羽鳥ミツ



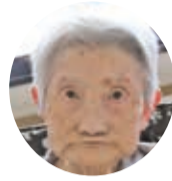
なかむら 中村アサ



なかだ 中田マサ



とうへい 藤平コウ



つじ 辻チエ



そめみやでんぞう 柴宮傳藏



すなが 須永モト



ましやま 増山たか



ほそかわさぶろう 細川三郎



ほじと 保知戸トミ



ひろた 廣田ヤス



わたぬき 綿貫トク



わたなべひでこ 渡邊秀子



まつざき 松崎ナカ

市内最高齢者 (今年度106歳)



いしかわ 石川ヌイ



いしやま 石山ヨツ

いっだ 飯田タカ

あおき 青木シヅ

にいむら 新村セン

さがら 相良リン

くふう 葛生シマ

希望によりお名前のみ掲載

「市民後見人養成講座入門編」受講者募集

市民後見人活動は、地域における支え合いの活動として、成年後見活動に「地域福祉」「社会貢献」の視点をもって取り組む活動です。認知症高齢者の増加などにより、成年後見の新しい担い手として、市民後見人に対する期待が高まっています。

成年後見制度の正しい知識や制度を学んで、身近な地域の支え合いに参加しませんか？

日時 11月13日(月)、20日(月)、27日(月) (全3回)各回10時～15時30分

場所 栃木保健福祉センター(今泉町2丁目)

対象 市民や親族後見として活動

したい方で、全日程を受講できる方(弁護士・司法書士・社会福祉士等の専門職の資格を持つ方を除く)



定員 30人程度(申込多数の場合、市内在住・在勤の方を優先)

費用 無料

申込 10月20日(金)～31日(火)までに問合せへ来所または電話にて

問合せ 栃木市成年後見サポートセンター(栃木市社会福祉協議会内)

☎(22)4501

市長通信



平成28年度の決算

市民の皆さん、こんにちは。

市内の山々も少しずつ秋の色に染まり始め、涼しさを感じる季節となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか？

さて、今回は平成28年度の決算についてお話しします。

市の「決算」とは、市にどれだけのお金が入ったのか(=歳入)、そのお金が、どのようなことにどれだけ使われたのか(=歳出)を、年度ごとにまとめたものです。

昨年度の決算は、皆さんの生活全般に関係する「一般会計」と、国民健康保険や下水道事業などの「特別会計」を合わせた市の歳入の総額は、約1,092億6,700万円、歳出の総額は約1,056億5,900万円で、約36億800万円の黒字となりました。

このうち一般会計の歳入は約662億6,500万円で、前年度比約41億3,300万円、5.9%の減となりました。主な要因としては、小中学校や保育所の整備などが一段落し、市の借入金である「市債」が、約21億6,900万円の減となったことです。

加えて、国からの交付金である「地方交付税」は、現在合併による特例措置を受けていますが、これが段階的に縮減されていることなどから、前年比約8億3,700万円の減となりました。

また、一般会計の歳出は、約638億6,300万円で、前年度比約25億3,600万円、3.8%の減となりました。主な要因として、「教育費」が、校舎整備事業の完了により、前年から約15億9,900万円減ったことや、栃木地区病院統合再編事業の完了に伴い、「衛生費」が、約10億7,400万円減ったことなどが挙げられます。

一方、社会保障経費などに使われる「民生費」は、就学前のお子さんの教育や保育に係る、特定教育・保育施設等施設型給付費が増加していることなどから、前年から約6億3,800万円増えており、一般会計全体の34.9%を占めています。

市の財政の重要な指標のひとつである、一般会計の実質収支(単純な収支額から平成28年度に継続する事業費等を差し引いたもの)は、21億5,100万円と、前年度に引き続き黒字を確保しました。この黒字分は、今年度に繰り越すほか、一部は基金として積み立てをしました。

今後、社会保障経費の増大や地方交付税の縮減などにより、市の財政状況が厳しくなっていくことが見込まれます。人口減少社会において、栃木市が今後とも持続的に発展していけるよう、歳入の面では、国・県の補助金の積極的な活用や、産業団地の整備による新たな雇用の創出など、将来にわたる安定的な財源の確保を図ってまいります。また、歳出の面では、事業の必要性、効率化等を再検討することにより、経費を抑制しつつも行政サービスの質的向上につながる行政運営に努めてまいります。

ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

栃木市長 鈴木俊美

